

25 津波で？ 地すべりで？ - 礫浦

知多半島の先端部南知多町の、新生代新第三紀中新統の師崎層群山海層の地層には礫岩層が見られます。



point 礫浦 (国土地理院地図に加筆)

南知多町内海の南方に礫浦と呼ばれる礫岩層が見られます。師崎層群としてはとても珍しいものです。真っ白な岩の中に黒い大きな礫が載る景色は昔から人々の関心を引き、尾張名所図会巻 6 (伊勢山) や田中 (1933) にも取り上げられています。伊勢にいた天照大神などの神様が対岸のこの地に投げた石が残ったものといわれ、最大(長径 2.5m)の円磨された結晶片岩の礫の前には鳥居も建てられています。

大小さまざまな大きさの不揃いな礫岩層で、ほとんどが結晶片岩の礫で、片麻岩の巨礫も含まれます。礫は角張っており、南ほど小さくなる傾向があります。山海層にレンズ状に挟まれた岩体です。この岩体のできた原因には、巨大な海底地すべり (林, 1987 や近藤ほ



図1 黒い部分が礫浦礫岩, 白い部分が凝灰質砂岩~シルト

か,1987) や直下型地震による津波の引き潮による堆積物という考え (山崎ほか, 1988 や志岐ほか,1989), 海底で結晶片岩の崖が崩れ、海底の土石流などによって深い海に運ばれたという考え (大路,2012) などがあります。礫が角張っており、レキとレキの間にも小さな結晶片岩の小レキが詰まっている (淘汰が良くない) ことなどから、このレキ岩が遠くから運ばれたのではないと考えられます。師崎層群が堆積した当時の海底は静かな安定したものではなく、隆起運動などの構造運動によっていったん堆積した地層が崩れたり、基盤の岩石が流れ込んだりするような環境だったようです。図1~図2・図4~図6が礫浦礫岩層の堆積の様子です。



図2 礫浦礫岩

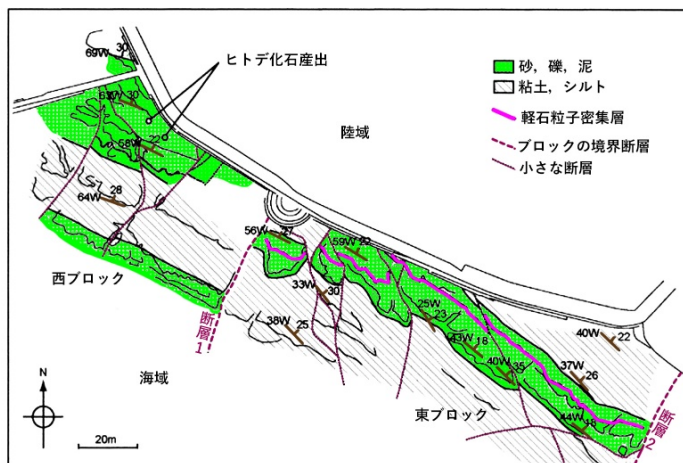


図3 礫浦 地質図(URL1に加筆)



図4 (左上) 図5 (上) 図6 (左下)
礫浦礫岩の堆積の様子



礫は、領家変成岩です。基質は黄褐色～灰緑色の中粒砂岩で、礫をよく膠結(強く結びつけられて固結)しています。図3(緑色)にみられるように、厚さ数mのレンズ状に挟まった層が3層雁行配列しています。走向はN40°～65°W、傾斜は25～35°Nです。津波によるという考えから、この礫岩層をツナミアイトと呼ぶことがあります。

参考文献

林 唯一,1987, 知多半島の中新統師崎層群の堆積時造構造運動. 地学雑. 96-5, 278-293.
 近藤善教・木村一朗, 1987, 師崎地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 地質調査所, 93 p.
 村松憲一, 2019, 愛知県の地質とジオサイト 第二版. 190 p.
 大路樹生, 2012, 深海の生物と古生物—知多の化石から生きているウミユリまで. 名古屋大博館報, 28, 153-164.
 志岐常正・山崎貞治, 1989, 津波堆積物—礫浦礫岩層を中心に—. 日本地質学会講演要旨, p.312.
 田中和三郎, 1933, 名勝及記念物其四 知多郡内海町 礫浦の礫岩. 愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告集 11, 59-63.
 山崎貞治・志岐常正, 1988, 津波堆積物. 月刊地球, 110, 511-515.

URL1 : FE-A8_shiki2006.pdf

【村松憲一】